

# 農林水産大臣賞（被害防止部門（団体））

電気柵管理責任者による電気柵の定期点検、野生動物が出没しにくい環境作りのための緩衝帯整備や草刈り等の共同作業など「集落ぐるみの鳥獣被害対策」を実施。

みなみあいづまち なかあらい

## 南会津町中荒井集落

（区長：渡部 雅俊）

福島県南会津町

### 主な取組

- 平成20年頃からニホンザル、次いでイノシシ、平成25年頃からニホンジカによる農作物被害が発生。特にニホンジカによる移植直後の水稻被害は集落全域で発生し、被害が急激に拡大し、個人の対応では限界となる。
- 区内に組織した「有害鳥獣被害対策委員会」を中心として、国・県・町の事業も有効活用しながら対策を実施。また、大学と連携して生息状況調査を実施し、被害防止対策に活用。
- 電気柵の維持管理のために管理責任者を配置し、「管理責任者による点検」と状況に応じた「共同作業」を実施。また、農地周辺の林の間伐や放任果樹の除去など9.3haの緩衝帯を整備し、管理のために定期的な草刈りを実施。
- 後継世帯を含む住民全員への参加を促すとともに、大学サークルやNPO法人などからもイベントを通して人材活用。
- 被害低減による営農意欲の向上を背景に、集落の担い手である農業法人や障害者福祉施設等との協働による耕作放棄地の解消が進み、地域の活性化に繋がっている。

【中荒井集落の農作物被害額・耕作放棄地面積】

平成26年度：約50万円 → 平成30年度：約32万円

平成26年度：6.9ha → 平成30年度：1.8ha

# 農林水産大臣賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

有害捕獲頭数の増加に伴う焼却処理の財源負担増を解消するため、ペットフードを製造。ブランド化し、商品の販路拡大等に取り組み黒字化を達成。市内の捕獲個体はほぼ全て利活用し、近隣市町からも捕獲個体を受入。

## こもろし 小諸市

（市長：小泉 俊博）

### 主な取組

こもろし  
長野県小諸市

- シカの有害捕獲頭数の増加により、捕獲個体の焼却処理費用が大きな財政負担となった。そこで、有害捕獲個体を利活用し処理費用を削減するため、需要の見込めるジビエペットフードの製造に着手。
- 平成27年度に、県の野犬・猫の殺処分場を買い取り、改修して食肉処理業及び食肉販売業の許可を受けた食肉処理加工施設を整備。
- 高い衛生レベルの確保や、大学との共同研究による臨床試験に基づく製品PRに取り組み、高級ペットフードとしてのブランド化を進め、ペット関連業者や動物病院等での販売やふるさと納税の返礼品として販路を拡大し、事業の黒字化を達成。
- 市内の有害捕獲個体はほぼ全ての利活用を達成（約92%）。加えて、近隣市町からも捕獲個体を受け入れ、処理頭数が大幅に拡大。

【小諸市における処理頭数（シカ）】

平成28年度：276頭 → 平成30年度：902頭

# 農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

正しい電気柵の設置ノウハウを地域全体で共有するとともに、サルの誘因となる地域全体の放任果樹（400本）を計画的に伐採、残した柿は柿もぎイベントとして地域活性化にも利活用。

## やまかみちく 山上地区有害鳥獣対策協議会

（会長：我彦 正福）

よねざわし  
山形県米沢市

### 主な取組

- 平成5年頃からニホンザルによる被害発生。平成17年に「山上地区有害鳥獣対策協議会」を設立し被害対策を実施。
- 平成26年度に外部アドバイザーの指導による正しい電気柵の設置手法を学び、成功体験を得る。
- 正しい電気柵の設置を地区全体のノウハウとして普及させるため、全員参加の仕組みなど自然に復習を促す仕組みとした。平成28年以降、住民が正しい電気柵設置の講師になるなど他地域への広域的な普及に尽力。
- 野生鳥獣の誘因原因となる地区内の400本以上の放任果樹（柿や栗）について、全て残す（収穫）、残さない（伐採）に選別し、約4割を伐採。収穫に選別した柿は、近隣の学生や学童と共同で柿もぎを行い、ドライフルーツに加工、高齢者施設等へ配布。柿もぎを通じた世代間交流、地域交流も行われ、地域の活性化に繋がっている。
- 子供から高齢者まで全住民を対象に、クイズやゲームも取り入れた獣害対策の学習会などを開催し理解醸成を図る。

【山上地区の農作物被害額】

平成26年度：約200万円 → 平成30年度：約90万円

# 農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

ICTを活用し被害状況と対策の効果を可視化することで、専門家（地域おこし協力隊）と地域住民が情報を共有するとともに、データに基づく地域に適した防護と捕獲対策の提案を通じ、住民主体の対策を実施。

## つしまし 対馬市

（市長：比田勝 尚喜）

つしまし  
長崎県対馬市

### 主な取組

- 市は、平成25年度に地域おこし協力隊制度を活用し、「有害鳥獣ビジネスコーディネーター」（獣医師）を配置。
- GIS（地理情報システム）やGPS付きカメラなどを活用し、被害状況、柵の設置状況、捕獲の状況を可視化。地域住民と被害対策の現状を共有し、地域に適した被害対策の検討を行うことで、地域住民主導の鳥獣対策を強化。
- 被害対策に関する詳細なデータを元に、毎年島内数カ所で被害相談会を開催し、地域住民に対し地域に適した最適な防護と捕獲対策を提案。
- 島内の小中学校で鳥獣害対策に係る授業を行い、鳥獣害対策の将来の担い手を育成。
- 「獣害から獣財へ」をキーワードに、ジビエソーセージ作りやレザークラフト講座を開催し、市民の鳥獣対策への理解醸成を進めるほか、HACCPの取組が評価され、ジビエが島内の給食や島内外の飲食店、ふるさと納税の返礼品などで活用されるようになった。

【対馬市の農作物被害額】

平成24年度：約3,600万円 → 平成30年度：約400万円

# 農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

他県の優良事例の視察をきっかけに、住民の意識改革。柵の適正管理や竹林の整備を実施し、被害低減を図るとともに、放棄されていた竹林を新たに「観光タケノコ園」として再生。

やまがし かほくまち うらがた  
**山鹿市鹿北町浦方集落**

（区長：中島 資生）

やまがし  
熊本県山鹿市

## 主な取組

- イノシシ対策のため、平成24年度～26年度にワイヤーメッシュ柵を設置するが、被害低減効果の実感よりも維持管理の負担が大きく集落には無力感が漂う。平成27年度に、他県の優良事例の情報を得て、現地視察を実施。
- 現地視察がきっかけとなり、集落全員で集落の環境改善について共通認識づくりに取り組み、これまでの「捕まえなければ被害は減らない」「柵を設置すれば入ってこない」「鳥獣対策は行政にやってもらうしかない」という概念を一気に覆すなど、住民の意識改革が起こった。
- 専門家からの指導を受け、竹林の除草刈りや間伐、柵沿いの草刈りなどによるひそみ場の撤去や、班体制によるワイヤーメッシュ柵の管理方法の見直し等の取組を集落ぐるみで実践。
- 長期間放棄されイノシシのエサ場兼ひそみ場となっていた竹林は、適正な管理を行った結果、「観光タケノコ園」として再生し新たなビジネスにも繋がっている。

【浦方地区の農作物被害額】

平成27年度：約170万円 → 平成30年度：約30万円

# 農村振興局長賞（被害防止部門（個人））

農家自らエゾシカ・アライグマ被害から自衛するため、わなの設置指導やわな免許取得など人材育成に尽力。活動は全道に広がり、14年間でのべ100回を超える講習会や現地指導を実施。

はらだ かつお  
**原田 勝男**

主な取組

いわみざわし  
北海道岩見沢市

- 氏は、平成16年にエゾシカ被害に苦慮する近隣農家からの要請を受けて「丘陵地有害駆除対策連絡会」を設立し、農家自らが農作物を自衛するために、農家が扱いやすいくくり罠の設置やわな免許の取得等を指導。
- 平成18年度には「NPO法人岩見沢ネイチャーサポート会」を立ち上げ、岩見沢市及び近隣地域へ活動を展開。熱心で丁寧な指導が評判となり、平成21年度には「NPO法人ファームサポート北海道」と改め、活動を全道に広げている。
- 14年間にわたる活動で、講習会や現地指導は100回を超えており、人材育成や農業被害減少に貢献。
- 農林水産省の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーとして登録され、近年は道内で被害が増加し問題となっているアライグマの捕獲技術の普及にも貢献。

【わな免許所持者】

空知管内 平成18年度：約160名 → 平成29年度：約540名

北海道内 平成21年度：約1,700名 → 平成29年度：約4,400名

# 農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

24時間受入体制の構築により町内の有害捕獲個体の8割以上を受入。「無添加シカ肉ドッグフード」を製造し、障害者の雇用機会創出に取り組む。

## 特定非営利活動法人 cambio（カンビオ）

（理事長：後藤 <sup>ごとう</sup> 高広 <sup>たかひろ</sup>）

主な取組

<sup>たかちょう</sup>  
兵庫県多可町

- 町ではシカの有害捕獲が進んでいたが、埋設場所の選定や埋設のための労力が捕獲従事者の大きな負担となっていた。そこで、平成26年度に遊休施設となっていた給食センターを活用して、無添加シカ肉ドッグフードの製造を開始。
- 独自の搬入伝票と監視カメラで確認を行うシステムを導入することで、24時間搬入を可能とし狩猟者の利便性向上により搬入頭数を拡大し、町内の有害捕獲頭数の8割以上を受入。
- 遊休施設の旧給食センターを活用することにより、食肉処理加工施設並みの衛生環境の下で耕作放棄地を再生して生産した野菜や規格外野菜も原材料とした「無添加シカ肉ドッグフード」を製品化し、解体から加工まで一貫生産。
- 障害者の雇用機会創出に取り組み、就労継続支援B型事業所として、施設利用者7名がペットフード製造に携わっており、町内の貴重な就労の場となっている。

【施設への搬入頭数（シカ）】

平成27年度：278頭 → 平成30年度：513頭

# 農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（個人））

和食料理人の視点で、新たなシカ肉メニューの開発や調理技術の開発等により、ジビエ料理の普及や認知度向上に貢献。

な か た ま さ ゆ き  
**中田 雅之**

主な取組

か み か つ ち ょ う  
徳島県上勝町

- 氏は、平成25年から、<sup>な ち ょ う</sup>那賀町の<sup>し き び だ に</sup>「四季美谷温泉」において和食料理人としてジビエメニューの開発に携わり、現在までに20種類以上を考案し、提供。また、やわらかくて美味しいシカ肉料理を提供するため、調理前の食肉処理方法や肉の特性に合わせた加熱方法、切り方の工夫などの技術を開発。
- 考案した料理等を基に、県内の料理店や一般家庭向けにシカ肉料理の講習会や県内の大学や高校への出前講座を行うほか、全国規模のイベントの開催に尽力するなどジビエの認知度向上と消費拡大・普及に貢献。
- 氏のジビエ料理普及の取組により那賀町内のジビエ料理店が増えるなど、「ジビエ料理」を柱とした地域振興に寄与。
- <sup>あ わ じ び え</sup>「阿波地美栄推進協議会」の会長として、県内の処理加工施設の解体処理技術の向上や供給体制の強化を行い、県内のジビエ利用倍増を推進。

【徳島県（県内広域地区）におけるジビエ利用処理頭数（シカ）】

平成28年度：292頭 → 平成30年度：909頭